

諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校
同窓会事務局
TEL 22-1222・FAX 22-5104
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/
編集 前田 幸一
印刷所 諫早印刷株式会社
TEL 22-1350

今年度の活動を振り返って



同窓会々長 小林靖明
(高校二十六回・昭和四十九年卒)

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃より同窓会活動に格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。コロナウィルス

岡、長崎と各支部でも盛大に総会が開催されました。今回は特に「東京不知火会」が創立七十周年を迎えられ、会場を渋谷南平の閑静な住宅街にたまたむ瀟洒なレストランで七十名余りの皆様方ご参加のものと楽しいひとときをもちつことができました。是非会員の皆様方も各地区で開催されている支部同窓会へご参加ください。あらためて

同窓生の強い絆を感じていただけると思っています。また年末には恒例となつています全国高等学校駅伝大会において、陸上部女子が一時間十分十五秒の記録で全国一位の記録をあげてくれました。目標としていた入賞は惜しくも逃しましたが、選手たちの走りが大きな感動を与えてくれました。物心両面にわたる心温まるご支援、ご協力を賜りまして、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。結びとしまして、母校の校舎においては、皆様の心のふるさとであり、青春の一ページを彩る御書院が、庭園、池水とともに美しい姿を取

り戻し、懐かしい藤も新しく立派に葉みかえりました。是非一度、お時間をおつくりいただきまして、藤の花咲く頃に園遊なさつてはいかがでしょうか。さて、今年度は五年に一度の同窓会会員簿の発行にあたり、名簿発行の意義をご理解賜りまして、今後とも同窓会活動を通して會員相互の親睦をはかり、母校の益々の発展を願い、より強いお力添えをお願い申し上げます。結びとしまして、皆様方のご清祥とご活躍をお祈りいたします。ご挨拶とい

らに、駅伝後援会を通じ、多くの同窓会員の皆様から募金をお寄せいただきました。皆様のご支援ありがとうございました。ご支援ありがとうございました。今年度は、関東同窓会を皮切りに、諫早での同窓会総会、福岡同窓会、関西同窓会、長崎地区同窓会と顔を出させていいただきました。それぞれの会において、「後輩をよろしく頼みます」というお声掛けをいただきました。何かができることがあつたらお手伝いします」というありがたいお言葉も賜りました。今年度は、母校に對する思いの深さを感じるとともに、これからいろいろな場所を活躍する生徒を育てなければという気持ちで、

「VUCAの時代」という言葉に象徴されるように、現代は変化の激しい時代だと言われており、その中で活躍するために、既存の概念にとらわれない、新たな発想ができることが求められており、校訓「自立創造」を体現する生徒の育成が必要であると感じております。最後になりましたが、會員の皆さまの益々のご健勝とご発展を祈念します。また、今後とも引き続き、本校とご協力をし、ご理解とご協力をお願いいたします。

令和六年七月六日(土)、ホテルグランドパレス諫早において、令和六年度の同窓会総会ならびに懇親会が開催されました。総会では、まず小林靖明会長のあいさつと植松信行校長による学校の現況報告が行われました。前年度の事業と決算報告、本年度の事業計画と予算の審議は、すべて承認され、その後は、懇親会が始まるまでの時間を活用して、現役諫高生による活動発表が行われました。今年度はギター・マンドリン部の演奏とコーラス部の合唱、吹奏楽部の演奏、および応援団の応援が披露されました。諫高生らしいはつらつとした発表の姿に大きな感銘を受けられた會員の皆様も多かったようです。すべての部が校歌のアンコールが盛り上がり、大いに盛り上がりました。続いて行われた懇親会は、幹事生で親会は、全日制二十九回、二十九年回、四十九回生の方々を中心となつてお世話をしてくださりました。約百五十名の出席があり、出席された方々は、ともに高校時代を懐かしみ、友と語りながら、旧交を温めておられました。会の途中にはマジックの披露もあり、また後半では、「のんこの節」が流れると小林会長を先頭として有志の方々の輪が自然とでき、皿踊りが始まりました。とてもなごやかな雰囲気の中、盛り上がるのができました。幹事の皆様には準備の段階から当日まで大変お世話になりました。ありがとうございました。閉会時には、二十九回生代表より三十回生代表を引き継いだ三十回生代表が来年の盛会を誓い、同窓会総会なぐりに懇親会を締めくくりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。次回のご参加も心よりお待ちしております。

主体的な学びを目指して



校長 植松 信行

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動に温かいご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。まずは、本校の近況について報告させていただきます。令和六年四月現在の生徒数は高校全日制八二十六名、高校定時制三十六名、附属中学校三六二名、合計一二二四名で、子どもたちは、「自立創造」の校訓のもと、学びを続けておりま

す。特に、本年度は県教育委員会から「イノベーションハイスクール」に指定され、生徒が主体的に学ぶ学校風土づくりに努め、校訓に込められた想いを高志をもつて自分の志を自分自身で切り拓くの実現を目指してまいります。中でも、課題研究には積極的に取り組み、外部との連携、対話を通じた課題解決を図っております。

「子ども食堂」に関する課題研究から始まった「パクパクプロジェクト」や、課題研究を周辺の中學生に紹介して体験してもらおう「探究道場」など、生徒が主体的に活動が続けております。進路面では、令和六年三月の卒業生は、「受かる大学より、行きたい大学」を目指し、それぞれ進路希望の実現を果たしました。「進路のしおり」に掲載されていた先輩からのメッセージを二つ紹介いたします。一般試験で合格した生徒について、体調管理や周囲への気配り、そして

当たり前のことを当たり前に行うことが大切であると、書いていました。また、総合型選抜で合格した一人の生徒は、勉強は必要であるとしても、課題研究活動や国家資格の取得にも挑戦できたと言っていました。勉強だけでなく、普段の学校生活で得る学びを通して、成長した様子に頼もしさを感じました。

また、部活動においても、令和六年四月以降で、高校全日制においては、陸上部、フェンシング部、レスリング部、アイスホッケー部、放送部がNHK杯全国高校放送コンテスト

トアナウンス部門で二年連続第一位を成し遂げました。なお、NHK杯の大会連覇は史上初という快挙でした。そのような中で、陸上部女子が、昨年の十二月に京都市で開催された第三十六回全国高等学校駅伝競走大会に出場し、十一位という素晴らしい成績を上げることができました。「走れなかった三年生を表彰式に連れていく」という思いで力を存分に発揮してくれました。当日は、関西同窓会の皆さまの熱いご声援をいただき、心より感謝申し上げます。さ

らに、駅伝後援会を通じ、多くの同窓会員の皆様から募金をお寄せいただきました。皆様のご支援ありがとうございました。今年度は、関東同窓会を皮切りに、諫早での同窓会総会、福岡同窓会、関西同窓会、長崎地区同窓会と顔を出させていいただきました。それぞれの会において、「後輩をよろしく頼みます」というお声掛けをいただきました。何かができることがあつたらお手伝いします」というありがたいお言葉も賜りました。今年度は、母校に對する思いの深さを感じるとともに、これからいろいろな場所を活躍する生徒を育てなければという気持ちで、

「VUCAの時代」という言葉に象徴されるように、現代は変化の激しい時代だと言われており、その中で活躍するために、既存の概念にとらわれない、新たな発想ができることが求められており、校訓「自立創造」を体現する生徒の育成が必要であると感じております。最後になりましたが、會員の皆さまの益々のご健勝とご発展を祈念します。また、今後とも引き続き、本校とご協力をし、ご理解とご協力をお願いいたします。

同窓会総会・懇親会の報告



関東支部総会

関東支部 岸川 剛(三十七回生) 第七十回東京不知火会総会・懇親会は、例年どおり六月第三土曜日の六月十五日に東京渋谷にて開催しました。

総会に先立ち、逝去された東京不知火会前会長柴田正友さんのご冥福をお祈りしたあと、古賀賢治会長(二十三回生)挨拶、毎回笑いの絶えない玉山三重子副会長(二十二回生)の会計報告・乾杯により懇親会にはいりました。司会は今回も本間忠俊常任幹事(三十七回生)です。

参加者は、大先輩二回生(一九五〇年卒)から七十五回生(二〇二三年卒)の同窓生のほか、ご来賓として郷土諫早より小林同窓会会長(二十六回生)、植松校長、大久保諫早市長(三十六回生)。また諫早市東京事務所職員の方々ほか、諫早修習館の学生さんにもご参加いただき総勢七十名となりました。

記念すべき七十回のイベントとして、郷土より多数の景品を提携いただいた福引で盛り上がり、世代を超えて母校愛を語り合うなど楽しい時をすごしました。

締めは、恒例野田誠さん(二十九回生)リードによる校歌斉唱。来年の再会を期してお開きとなりました。



関西支部総会

関西支部の活動報告および近況
関西支部長 古川徳三(二十三回生)



関西支部は総会を、昨年十一月二日に、ご来賓として小林会長、植松校長、事務局の塚原様の参加を頂き総勢四十七名で開催しました。一人でも多くの参加を募るため、幹事や幹事経験者が手紙を書き、直接電話もしました。総会の案内の封筒に、QRコードを印刷しスマホのカメラをかざすと、諫早の風景と校歌の動画が見ることができるようになりました。

ゴルフ「浪花さいば会」は四月に奈良県、十月に大阪府でそれぞれ三組で開催しました。ウオーキング「あるかんば隊」は五月に九名の参加で世界遺産の百舌鳥古墳群を巡りました。十二月二十二日高校駅伝では、十五名近くが西京極の競技場で母校の応援団と共に応援しました。今年十一月二日に尼崎で開催

中京支部総会

振り返ると六十年
中京支部長 渡邊 豊(二十回生)

昭和三十九年十月四日、一九六四年の東京五輪の年です。名古屋は熱田神宮の少し北側にある「賀城園」に四十六名の諫高同窓生が集まり、中京支部が立ち上がりました。本来なら、節目の年でもあり、何としても中京支部総会を開催しなくてはいけないところでしたが、私の不手際のせいで総会を開催しませんでした。申し訳ございません。

中京支部総会といえは、田口豊太郎さん(全十一回卒)の名調子に乗せて、進行していました。初めて参加して訳も分からずいたときに田口先輩による紹介の後、好き勝手にしゃべったことを思い出します。その田口先輩は「諫高同窓会中京支部」の歴史をまとめたいとされていらっしゃるようですが、半ばでお亡くなりになりました。総会の時の名調子のようなまともを期待していましたが、残念です。

令和になってから中京支部の活動が寂しくなっていますが、諫高同窓会本部のお力添えをいただきながら、創設六十年を過ぎた新しい形の諫高同窓会中京支部を創生していかねばと令和七年一月に心新たにしています。



令和5年度三重四日市にて

長崎支部総会

長崎支部長 河野英雄(十五回生)
同窓会長崎



支部の新年会を、今年も、一月十六日、諫早高校植松校長や、小林同窓会会長をお迎えして開催、ほぼ例年並みの四十数名の参加となった。今年は、千住県議や、馬場県美術協会会長など、初参加の人も多く、病を克服した草野君も元気に姿を見せ、交流の場となった。さらに、前川県教育長も、同じホテルで開催されていた教育委員会の会合から、諫高卒の県職員と一緒に、挨拶に来られて場を盛り上げて頂いた。参加者のスピーチでも、拍手や笑いが絶えず、最後は恒例の、輪になって「校歌」を歌ってお開きとなった。しかし、長崎支部も参加者の高齢化が進んでいるので、少しでも、若い世代の参加者を呼び掛けるためにも、来年以降、支部世話役も、若い世代にバトンタッチしたい。長崎支部が、母校を懐かしむだけでなく、現役世代の「異業種交流の場」になることを願っている。



福岡圏支部総会

福岡圏支部長 前田 豊(十九回生)
二〇二四年(令和六年)七月二十七日福岡市のホテルクリオコート博多で第九回総会と懇親会を開催しました。



小林同窓会長、植松校長、塚原事務局長の来賓をいただきました。参加者数は例年より少なく七十五名でした。支部長が「のんこの節のルール」を紹介し、初めてののんこの節を踊りました。

平野隆文氏の居合や歌舞の飛び入りもあり、楽しい会となりました。ところで、支部長が二月に「弁護士の日々記―民主主義の危うさのなかで」という本を出します。「諫早に生まれて」の章に始まり、諫早での長崎原爆被災者救護記も書いています。

藤棚が新しくなりました



2024 (第76回卒業生) 入試結果

Table showing admission results for 2024 (76th graduates) across various university categories: National University, Public University, Private University, University of Education, Short-term University, Medical/Vocational Schools, and Civil Servants. Columns include Name, 76th Year Applicants, Graduates, and Total.

〈左記以外の上位実績の紹介 (各部ごと)〉

Table listing achievements of various departments (陸上部, フェンシング部, 弓道部, 卓球部, テニス部, ソフトボール部, 水泳同好会, レスリング部, 放送部, コーラス部, 吹奏楽部, 美術部, 書道部, 写真部, 文芸部) including specific competition names and results.

部活動の実績紹介

- 放送部 NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門 優勝 (2年連続)
★2年連続受賞は史上初の快挙!!
• 令和6年度全国高等学校駅伝競走大会 第11位
• インターハイ (北部九州総体2024) に陸上部、フェンシング部、レスリングが出場し、陸上部男子三段跳 7位入賞
• 全国高等学校総合文化祭 (清流の国ぎふ総文2024) に放送・合唱・ギターマンドリン・文芸・書道の部門出場

上位入賞を果たせなかった部においても日々の練習を頑張り、文武両道を目指して、実り多い部活動を行っています。

令和七年一月十七日にホテルラッパステルにて、七十五回生の同窓会を開催しました。先生方を含め二名の方を一名の参加を頂き盛況のうちには終わりましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。
振り返ると、私たち七十五回生の高校生活はコロナで始まり、一年生の初めから自宅学習や分散登校を余儀なくされました。しかし学年が上がるにつれコロナの影響も小さくなり、縮小版ながらも修学旅行や体育大会なども実施できて、七十五回生全員でたくさん思い出せる事ができました。
今回の同窓会ではコロナ禍の中での学校生活の思い出や修学旅行など、当時の思い出話に花を咲かせるとともに、約二年ぶりに会った友人や先生方と近況報告で盛り上がるなどマスクなしでの上同窓会は非常に楽しいひと時となりました。
次回の同窓会では友人や先生方とどのような話ができるか今のうちから楽しみにしましょう。
七十五回生幹事 山口泰正

成人同窓会活動報告



お礼 — 令和六年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

三年生七人の想い

陸上部顧問・女子駅伝監督 羽山 篤史
(五十一回生)

同窓会の皆様には、日頃より多大なるご支援とご声援を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年の都大路では二年生のみ出走となり、二十二位という悔しい結果でした。その悔しさをもって、「八位入賞」という目標を掲げてこの一年練習に取り組んでまいりました。

今年の三年生は、入学時より仲が良く明るい学年です。六月の高総体で二人が引退し、五人で都大路を目指していましたが、彼女たちの中では、ずっと七人で走り続けていました。夏に主将・副主将の二人がけがで離脱する中、チームを支えたのは残りの三年生でした。その結



区の下級生が走れなかつた三年生のために粘り、五区の三年生が十一位という結果で仲間の元へ帰ってきました。長距離女子部員十六名全員で、師走の京都を駆け抜けました。途切れることのない声援により、今の力を出し切ることができました。目標には届きませんでした。後まで素晴らしくチームワークを発揮してくれました。さらに飛躍してまいりましょう。今後とも変わらぬ応援をよろしくお願いたします。

定時制の現在

定時制教頭 酒井 太一 (四十四回生)

令和六年度の一年間を振り返ってみると、主な行事は次のとおりです。四月九日、第七十六回入学式において十三名の新入生を迎え、全生徒三十六名でスタートしました。生徒は夕方からの四コマの授業を受けています。そのうち、約五分の生徒が昼間に働きながら通学しています。六月九日、県定時制通信制体育大会が本校及び大村高校で行われ、本校からバドミントン競技と卓球競技に出場しました。大会に向けて短い時間ながらも練習に取り組み、大会当日も思い切ったプレーが

ランクフルト販売など大盛況に終わることができました。十月三十一日には隔年で開催しているバス遠足で佐世保市の海街を訪れ、楽しい時間を過ごしました。十一月十六日、諫早・大村・島原の定時制三校による中地区定時制体育大会が本校体育館で行われ、バドミントン競技・卓球競技・学校対抗の長縄跳びを実施しました。三校の生徒の親睦を深めることができました。今年度の卒業予定者は三名です。令和五年度までの定時制の卒業生は一五六六名であり、その一員として加わることにあります。一人ひとりの活躍を大いに期待したいと思います。なお、

シリーズ「おしどりの池」② 母校に帰って思うこと

井上 貴晶 (五十六回生)

諫早高校を卒業して二十年というタイミングでの附属中学校への赴任は、驚きとともに、縁を感じ、気持ち新たに頑張ろうと思えました。それから一年が経とうとしています

え、夏休みや放課後に、校舎裏や高城公園で遅くまで練習に励みました。その過程と一位をとった結果で、この上ない達成感と感動を得ることができ、成長も感じました。今、附属中学校では、生徒が主体的に取り組む活動が多く組まれています。つい助言をしたくなりますが、自分の高校

時代のことを思い出し、生徒の成長のためには、生徒自身がどのように意思決定し、行動するかを見守ることも大切だと思ふようになりました。今も昔も変わらず、生徒の主体性を活かすことができる諫早高校の校風の下、生徒の成長の一助になるようこれからも励んでいきます。

